

いずれかが成り立つ不等式【類題 1】

$a_1, a_2, a_3, \dots, a_n$ を $0 < a_i < 1$ ($i=1, 2, 3, \dots, n$) である n 個の実数とすると、次の不等式のうち少なくとも 1 つは成り立つことを示せ。

$$a_1 a_2 a_3 \cdots a_n \leq \frac{1}{2^n}, \quad (1-a_1)(1-a_2)(1-a_3) \cdots (1-a_n) \leq \frac{1}{2^n}$$

< '94 甲南大 >

【戦略】

例題同様に背理法を選択したいところです。

$$a_1 a_2 a_3 \cdots a_n > \frac{1}{2^n} \quad \text{かつ} \quad (1-a_1)(1-a_2)(1-a_3) \cdots (1-a_n) > \frac{1}{2^n}$$

と仮定します。

登場人物は正の数なので、辺々かけあわせると

$$a_1(1-a_1) \cdot a_2(1-a_2) \cdots a_n(1-a_n) > \frac{1}{4^n}$$

ということになります。

$a_1(1-a_1) \times a_2(1-a_2) \times \cdots \times a_n(1-a_n)$ と $a_k(1-a_k)$ という形で見れば

$$(n \text{ 個の積}) > \frac{1}{4} \cdot \frac{1}{4} \cdots \frac{1}{4}$$

(n 個の積)

という形ですから

「各々の k で $a_k(1-a_k) \leq \frac{1}{4}$ だったら矛盾するな」と目を光らせれば解決です。

【解答】

$$a_1 a_2 a_3 \cdots a_n > \frac{1}{2^n} \quad \text{かつ} \quad (1-a_1)(1-a_2)(1-a_3) \cdots (1-a_n) > \frac{1}{2^n}$$

と仮定する。

双方左辺は正の数であり、辺々をかけあわせると

$$a_1(1-a_1) \cdot a_2(1-a_2) \cdots a_n(1-a_n) > \frac{1}{4^n} \quad \cdots \textcircled{1}$$

一方、

$$a_1(1-a_1) = -\left(a_1 - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{4} \leq \frac{1}{4}$$

$$a_2(1-a_2) = -\left(a_2 - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{4} \leq \frac{1}{4}$$

⋮

$$a_n(1-a_n) = -\left(a_n - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{4} \leq \frac{1}{4}$$

であり、 $0 < a_i < 1$ ($i=1, 2, 3, \dots, n$) という条件から、各々の左辺は正の値である。

ゆえに、辺々かけあわせると

$$a_1(1-a_1) \cdot a_2(1-a_2) \cdots a_n(1-a_n) \leq \frac{1}{4^n}$$

となり、 $\textcircled{1}$ に矛盾する。

以上から、

$a_1 a_2 a_3 \cdots a_n \leq \frac{1}{2^n}$ または $(1-a_1)(1-a_2)(1-a_3) \cdots (1-a_n) \leq \frac{1}{2^n}$ が成り立ち、題意は示された。

【総括】

例題は $a_k + \frac{1}{a_k} \geq 2$ (相加平均・相乗平均) という、割と個性が強めな形が決め手となりましたが、本問は

$$a_k(1-a_k) = -\left(a_k - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{4} \leq \frac{1}{4}$$

という平方完成が決め手となりました。

決して難問ではないと思いますが、例題に比べて急所に気づく匂いが弱いので、例題よりは差がつくかもしれません。